

アクティブラーニングと学力研の実践を再考する

山口市 大達 和彦

アクティブラーニングの提起するもの

アクティブラーニングとは「教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、生徒たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのが目的。そうした力を養う授業手法として、議論やグループワークなどが挙げられることが多い。」と解説されています。その他多くの「ALSとは・・・」の提起がなされていますが、概ね右のように集約し以下を展開させていただきます。

「総合的な学習」が位置づけられてすでに十年以上が立ちます。発見学習・問題解決学習・体験学習・調べ学習・グループ学習・ディベートなど教育現場では様々な取り組みが行われ先生方を翻弄してきた現実があります。この間「国際学力調査(PISA)・OECD 生徒の学習到達度調査」の低下が叫ばれふりが大きく「学力向上」に

揺り戻されてきました。「全国学力テスト」が実施され、その調査結果に右往左往し目的とされた学力格差は正に力を入れるのではなく、2、3点にひしめく順位の競争と化しています。過度な過去問指導の是正、コンマ以下の数値の省略等なかなか改善の方向はみえないばかりか一層競争に拍車をかけている現状があります。

学力研がこの間に取り組んできたこと

私が学力研に関わって実践を始めたのは、「総合的な学習」が本格実施に移されようとしていた二〇〇一年です。

「いじめ」や「子どもたちの荒れ・キレ」などが大きな社会問題にもなり、当時赴任していた学校も同じように子どもたちの「荒れ」に翻弄されていました。学力研の夏の大会に参加しその解決の手がかりを得ようと「読み・書き・計算」の実践に耳を傾け、新林小学校の「学力づくりで学校を

変える」(久保齋実践報告)には、これまでの実践を根底からくつがえすほどの衝撃的な刺激と大きな示唆を頂きました。

学校ぐるみで生活規律と学習規律の改善に努め、「百マス計算」や漢字指導、全校一斉の音読指導にも取り組みました。

全校一斉の「到達度テスト」を実施し、子どもたちの学力実態の予想以上の低い結果に驚きました。この後、学校全体の授業改善の方向と到達目標を明確にしました。

また年3回の「到達度テスト」の実施を決定したのもこの時です。

書くこと・話すこと・交流すること

「読み・書き・計算」の学力の基礎をきたえる取り組みを始めて一ヶ月も経つころ、毎日騒然としていた各教室も次第に落ち着きをみせるようになり運動場や廊下での教師の声かけも少なくなりました。

そして、何よりも大きく変わったのは授業形態でした。「子どもたち一人ひとりが自分の意見や考えをもって授業に参加すること」「ノートには、自分の意見を書くだけでなく、最後の振り返りもしっかり書くこと」児童自身が司会を経験しながら意見の交

流をはかること、「一人学び」の場を持ち自分の考えを明確に持つこと、その後でとらりの児童と、また小グループで意見を発表し合ったりして、抵抗なく全員の場でも発言できる力をつけることを目指してきました。全体の場では、ただ発表して終えるのではなく学級のみなど意見を交換しながらより豊かな意見や考えをもつことを目指してきました。

学力研の豊かな取り組みと

アクティブラーニングの課題

アクティブラーニングの目指す授業で求められる能動的な取り組みは、授業の形態だけでは達成できません。

「総合的な学習」で様々な活動が保障され自由な学習の場が与えられながらうまく機能しなかった原因の第一は、アクティブラーニングの危惧するところの「知識の定着と詰め込み」もない子どもたちの学力の低下にあります。四十七都道府県の位置ばかりか県名もままならない、世界の国々の国名の二十数カ国が出てこない、子どもたちの語彙力のもととなる漢字の定着が五割程度に留まっている。こんな実態では「ア

クティブ」な授業は成り立ちません。

学力研の実践は、子どもたちに確かな計算力をつけ全員が当該学年の算数の授業へ意欲的に参加できること。詩やことわざ名文の暗唱と音読に取り組み、豊かな交流のできる国語教室をつくること。漢字の取り組みを大切にリズム漢字や漢字カルタにも取り組んできました。「都道府県カルタ」「歴史人物カルタ」「世界地図カルタ」などを通して子どもたちのより高い学びを目指してきました。

つまりきのある児童にはしっかりと寄り添い、一つ一つそのつまりきを乗り越えることができる取り組みを大切にしてきました。

知識の定着と共有は豊かな学びの土台

アクティブラーニングの提示する学びの形態は、子どもたちの主体的・協働的な学びを通して「学びの質や深まり」を目指すとされています。発見的な学習も問題解決的な学習も、子どもたちの一人一人に共有できる知識の土台がなければ成り立ちません。学びの基礎はいつの時代も普遍です。

特に小学校の低学年では確かな「読み・

書き・計算」が求められます。

「総合的な学習の時間」が開始される数年前の教育現場の騒動をみてきた私は、二度と同じ徹を踏まぬことを願うばかりです。

くり返される「新しい学力観」で振り回されるのは子どもたちです。子どもたちには、豊かな学びとこれからの社会に生きる知識と知恵は不可欠です。この意志をもって毎日の授業に臨みたいと思います。

そうすれば、何を大切に組み組むか自ずと明らかとなります。

教育現場には先人の積み上げた

学びの財産があふれている

隣の教室から聞こえる豊かな音読の声、ほほえましい子どもたちの笑顔と発言する姿、全員で一途に計算に向かう子どもたち、静かに聞き入る学年集会や児童会活動、どれもこれも長い間先生方の積み上げてきた技術や指導のたまものです。アクティブラーニングの実践はすでに沢山の先生方が取り組んでいる中にあふれていると確信しています。これまでの自身の実践に自信をもつて取り組んでいきましょう。大きなヒントは、隣の教室や上の階にもあると信じて。